

第2版の序

整形外科分野のリハビリテーション医療に関する膨大な書籍の中で、本書の初版は外傷・障害の原因や病態をまとめたうえで、評価・治療・患者コミュニケーションについて図表やカラー写真を多用してわかりやすく解説した入門書として企画されました。初版発刊から12年、皆様のご愛読のおかげでこのたび第2版の出版に至りました。

この12年の間、高齢社会を背景に整形外科分野のリハビリテーション医療に対する期待やニーズはさらに高まり、実際の臨床現場ではこれを専門とする医師、理学療法士、作業療法士への依頼・相談件数は着実に増えていることを実感します。これらに広げる形でリハビリテーション医療は科学的根拠を蓄積しながら進歩を続け、ICT、AI、遠隔、ロボットなどをキーワードとした先端技術によるリハビリテーション医療が実際の現場に普及してきております。

一方で、リハビリテーション医療の基本となるクリニカルリーズニングやエキスパート思考、評価・治療技術の重要性がより一層重視されてきています。第2版では、クリニカルリーズニングに関する内容をアップデートし、画像読影・診断に関する項目を追加しました。また、近年のリハビリテーション医療のニーズや根拠をかんがみて、初版で扱った疾患に下記を加えました。さらに、各疾患の稿において近年実用化が進んでいるエコー画像に関する所見を盛り込みました。

上肢：肘部管症候群、TFCC損傷、弾発指、ドゥケルバン病

下肢：単径部痛症候群、膝蓋腱症（ジャンパー膝）、鵞足炎、腸脛靭帯炎、
足底腱膜炎

脊椎、脊髄：頸椎症性神経根症、頸椎症性脊髄症

第2版の特徴ともいえるこれらの情報が、読者の皆様の明日からの臨床に役立ち、ひいては患者様の症状改善やライフパフォーマンス向上につながることを編集者として願っております。最後に、初版に続いて貴重な執筆・編集の機会を与えていただいた、鈴木様、横内様、大谷様をはじめとする羊土社の関係者の皆様と、ともに編集を担っていただいた親愛なる中丸宏二先生に感謝を申し上げます。そして何より再び監修を快くお引き受けいただいた獨協医科大学埼玉医療センター整形外科主任教授の神野哲也先生に心よりお礼申し上げます。

2024年11月

編者を代表して
相澤純也